

短期高等教育と資格

—女子に焦点をあてて—

比較教育社会学コース 長 尾 由希子

The Relationship between The Vocational Qualifications and The Short-term Higher Educational Institutions;
Focusing on The *Senmon-gakko* Female Students and The Junior College Ones

Yukiko NAGAO

In this paper, I examined two questions; the first, how do the vocational qualifications induce the female high school students to choose the institution in Japan, which has two short-term higher educational institutions, the *senmon-gakko*, so-called Japanese vocational school and the junior college, of which institutional positioning is very different? And the second, what kinds of qualifications (the aspect of the quality) and how many qualifications do the youth female do and will earn (the aspect of the quantity)? For this purpose, I exercised logistic analysis and descriptive analysis.

These analyses clarified the following two findings. The first, a qualification intention of the female students has the negative influence on choosing a university (when based on a vocational school). But some bias may have been in the distribution of the social classes among the samples. The second, the kind of qualifications which the female students aimed at is connected with the major of the educational institutions. For example, while the qualifications given by the *senmon-gakko* have more highly specific natures, the qualifications given by the junior college have more general natures. I will make it into a future subject, the considerations on the institutional and career meanings brought by these differences.

目 次

1. はじめに —問題の所在
2. 分析で使用するデータについて
 - A パネル調査の概要
 - B 専門領域の分布
3. 進学先の規定要因と資格志向 —課題1)の検証
 - A 使用する変数
 - B 女子における進学先の選択と資格志向
4. 専門学校・短大における資格の取得状況および目標 —課題2)の分析
 - A 取得済・めざす資格の数に関する比較 —課題2-1)量的な側面の検討
 - B 資格の種類に関する比較 —課題2-2)質的な側面の検討
 - 1 専門領域別にみた傾向(1) —専門学校
 - 2 専門領域別にみた傾向(2) —短大
 - 3 資格別にみた傾向
5. まとめ —本稿の含意と今後の課題

1. はじめに —問題の所在

本稿の目的は、資格を付与する養成施設として、また女子高校生の進路として、二重の意味で競合関係にある専修学校専門課程(以下、専門学校)と短期大学(以下、短大)を対象に、それぞれの学生における資格取得の特徴と、女子高校生が進路を選択する際における資格志向の影響を明らかにすることである。

女子の高卒後の進路としては、2つの短期高等教育機関がある。専門学校と短大である。この両者の関係は、1990年代には短大進学率が専門学校進学率を上回っていたが、2000年以降は逆転し、専門学校進学率が短大進学率を上回っている。2006年には『学校基本調査報告書』によれば、短大への進学率が12.9%であるのに対し、専門学校への進学率は21.4%である。

このように専門学校への進学率が上昇してきた原因は、資格志向にあると考えられてきた。だが、果たして単純にそう言い切れるだろうか。

従来は教員養成や教養教育に力を入れてきた短大だが、こんにちでは専門学校にならって資格取得教育に力を入れ、カリキュラムや組織の改編を進めているという¹⁾。こうした短大における資格教育の重点化は、現場の高校教員にも明確に認識されている。以下は、進路指導経験をもつ都立高校のベテラン教諭の話である(2005年3月下旬)。

短大がいろんな資格を重視するようになって、専門学校と、説明会ではおんなじようなことを言ってるんですよ。こういう資格をとるようになってます、と。こういう資格の講座が単位認定されますと。

で、劇的に変わったのは〇〇の短大(都内の伝統的ないわゆるお嬢様学校—引用者註)で、〇〇の短大は一昨年まで、うちの学校は資格なんかとりませんと、教養教育に徹してるんですって言ったのに、今年になったら、いろんな先生入れて、資格重視の短大になりましたって言ってるんですね。

で、〇〇でさえそうだから、おしなべて短大は、専門学校化したんですね。だから、短大と専門学校の差はほとんどなくなっちゃったんですよ。

この教諭の発言にも端的に表れているように、資格教育という点では、専門学校と短大との違いは必ずしも明確ではなくなっている。

また、資格取得要件についても、ほとんどの資格において養成施設としての専門学校と短大の間に制度的差別は設けられていない。たとえば看護師、幼稚園教諭、保育士、栄養士などいずれも、認定されている養成施設であれば、制度上は専門学校でも短大でも取得可能な資格である。

つまり、こんにちでは専門学校も短大も資格教育に力を入れており、かつ両者で競合する資格も数多く存在する。そのような状況で、今なお専門学校への進学は資格志向のためだと言い切れるのだろうか。

これまで高校生の進路に関する先行研究においては、成績などのメリトクラティックな要因や世帯年収などの構造的な変数が重視され、資格志向という、動機や選好に関わる要因については十分に検討がなされてこなかった。

長尾(2006)は専門学校と短大の二択の進路選択を想定し、資格や仕事に対して意識的な女子は専門学校に進学しやすく、学歴を重視する女子は短大に進学しや

すいことを指摘している。しかし、次の二点で課題が残る。まず、大学も含めた高等教育機関全体における進学先の選択に際しても資格志向が有意なのかどうかは明らかにされていない。また、経済的な変数も含めた上での検討はなされていない。先行研究が繰り返し指摘してきたように、高校生の進路選択において家計は大きな意味をもっており、経済的要因を含めてもお、資格志向という要因が女子の進学先の選択に影響を及ぼすのかを検討する必要がある。

他方、資格に関する先行研究は、大学(葛城・山田 2005)や短大(青島 1997a)など同一の校種内における資格取得に注目したり、専門学校をのぞく複数の校種に注目して資格が職業や収入に及ぼす影響を測定したり、資格取得に必要な学歴要件を前提に資格を分類してきた(阿形 1998a, 1998b)。

つまり、資格は学歴の代理指標として分析された上、同じ学歴要件の資格という質的な差異は十分問題にされてこなかった²⁾。それは専門学校という、教育年数が短大と同じ機関の位置づけが研究上十分になされてこなかったためでもある。資格は女子において収入や職業威信にプラスの効果をもつことから(阿形 1998b)、女子と資格についての分析が重要であること、女子にとっては進学先として複数の短期高等教育機関があり、しかもそこに資格をめぐる競合関係があるという状況を踏まえれば、女子が取得する資格に関して、教育機関の別も踏まえた現状を明らかにすることが必要であるといえる。

よって本稿は、課題1)女子における資格志向と進学先の選択行動の関係を分析すること、課題2)同程度の学歴要件、つまり女子の専門学校進学者と短大進学者における資格取得の特徴を明らかにすること、以上の2点を課題とする。平たく言えば、女子において進学先の選択に際して資格取得がどの程度意識され、結果としてどのような資格がどれだけ取得されているのかを明らかにする。そしてこの分析を通し、短期高等教育機関と資格の競合について考察を行う。

2. 分析で使用するデータについて

A パネル調査の概要

本稿で分析に用いるデータは、次の2つの調査から成るパネル調査のデータである。厚生労働科学研究費補助金「若年者の就業行動・意識と少子高齢社会の関連に関する実証研究」(主任研究者 佐藤博樹)による「高校生の生活と進路に関するアンケート調査」(以下、

「高校生調査」と、その同一対象者を追跡した2年目の「高校卒業後の生活と意識に関するアンケート調査」(以下、「2年目調査」)である。

「高校生調査」は、2004年1月から3月(調査対象者が高校3年生の冬)にかけて実施した。進学率と無業率を軸に4県を抽出し、各県から無作為抽出した高校のうち調査協力の得られた101校の3年生を対象にしている(7,563人、回収率69.1%)。そのため、設置者(公私立)、卒業後の進路、学科などの点で幅広い種類の学校を含んでいるという利点がある。

「2年目調査」は、「高校生調査」の回答者のうち追跡調査に同意した2,057人に対して高卒後2年目、2005年の秋に行った追跡調査である(回収率33%)。このうち高卒後2年目現在に専門学校または短大に通っている女子を用いる。サンプル数は専門学校生88人、短大生69人の計157人であるが、以下の分析では変数ごとの回答状況により、若干変動がある。

「2年目調査」はサンプル数が少ないため、過度の一般化は避けなければならない。しかし、1)若年者を対象としたパネル調査である、2)資格について詳細なコード化を行っている、3)専門学校と短大の専門領域もあわせてたずねているなど、既存の調査にはみられない利点がある。また、次節でみるように、専門学校と短大それぞれについて、専門領域別人数の構成比が全国的な分布とほぼ一致している。そのため、現在の若年女子の専門学校と短大における資格取得状況

をみるためには非常に貴重なデータであり、ある程度の一般化も可能であると考えられる。

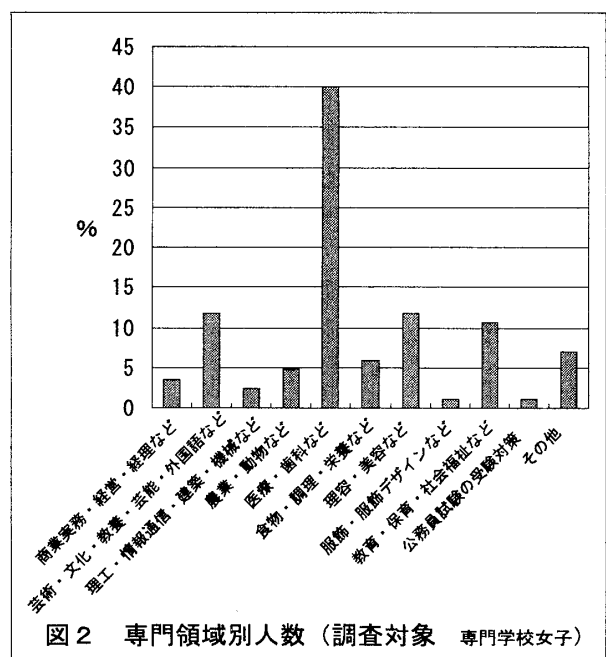
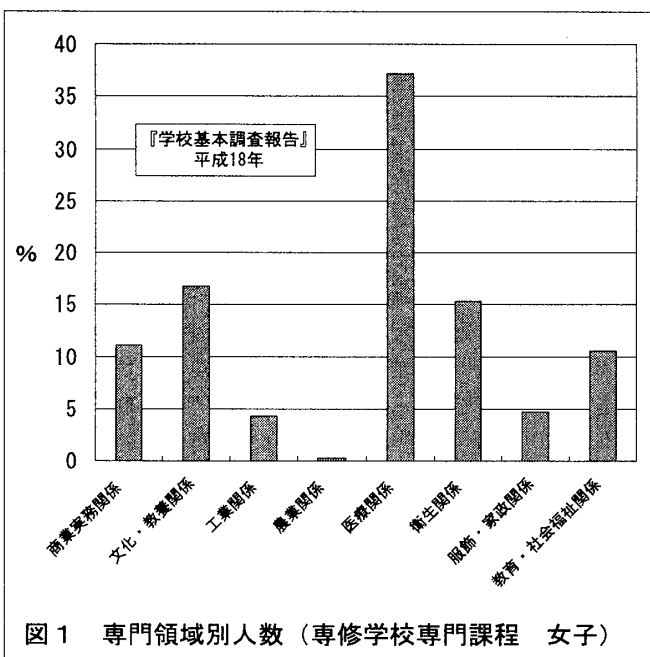
「高校生調査」は主に課題1)で用いる³⁾。課題1)で使用するすべての変数(表1)につき欠損値のない女子、四大生79人、短大生28人、専門学校生57人の合計164人を分析対象とする。この進路別の構成は、2004年の全国女子の高卒後進路の割合と概ね一致しており、サンプルは少ないが女子高校生の進路を分析するという目的に適しているといえる⁴⁾。「2年目調査」は課題2)で使用する。

B 専門領域の分布

専門領域別に、『学校基本調査報告』でみた全国の学生数の分布と、本稿の対象サンプルの構成を確認しておこう。

まず専門学校についてみると、全国的な専門領域の分布(図1)とサンプルの分布(図2)はほぼ等しいといえる。『学校基本調査報告』における専門領域と「2年目調査」のそれではカテゴリの区分に若干の違いがあるが、医療関係が最多で4割近くを占めること、続いて文化・教養関係や衛生関係⁵⁾となっていることなどは共通である。詳細にみれば本サンプルでは商業実務関係や服飾関係が全国平均よりやや少ないという違いはあるが、全国的な傾向とほぼ一致するといえてよい。

短大についても、全国的な専門領域の分布(図3)とサンプルの分布(図4)はほぼ一致している。『学校基



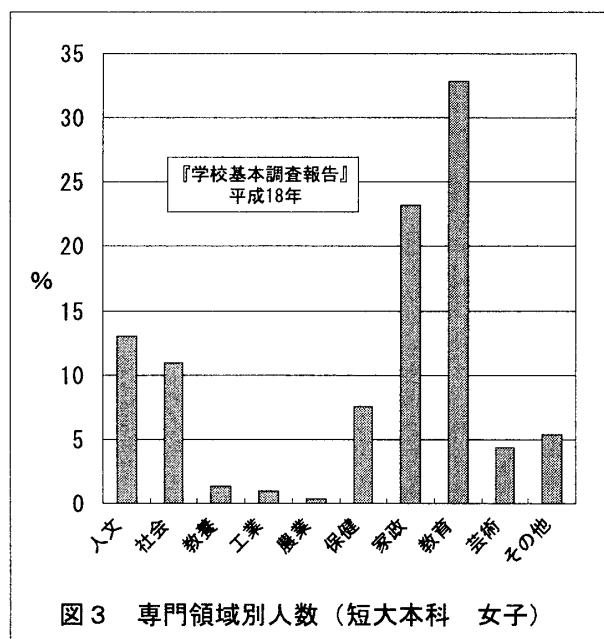


図3 専門領域別人数 (短大本科 女子)

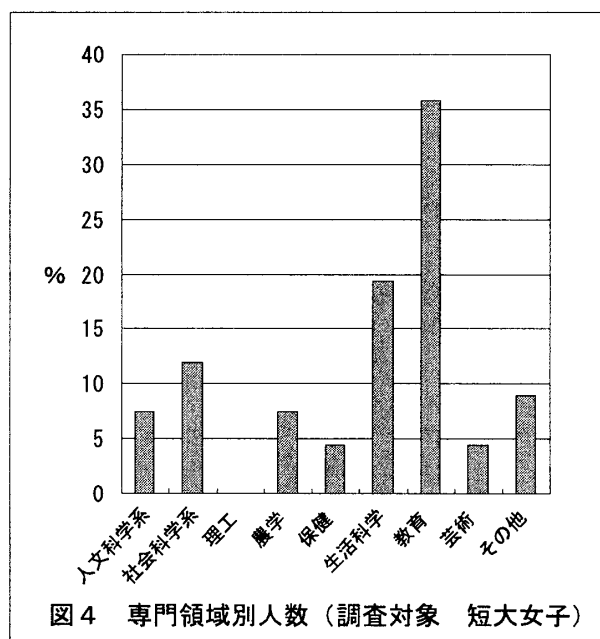


図4 専門領域別人数 (調査対象 短大女子)

本調査報告』と「2年目調査」では専門領域のカテゴリにわずかな違いがあるが、教育関係が最多で35%ほどであること、これに家政や生活科学、人文科学系や社会科学系が続くことなど同様の傾向が読み取れる。本サンプルでは人文科学系や保健の領域がやや少ないこと、理工系が不在であること、農学系がやや多いことなど多少の違いもあるが、全国的な構成とほぼ重なる。

以上のように、本稿で用いるデータは専門学校・短大とも全国的な専門領域の構成とほぼ一致しており、サンプルは少ないながらも、専門領域別に資格取得の傾向を分析するという目的に適しているといえる。

3. 進学先の規定要因と資格志向 —課題1)の検証

A 使用する変数

ここでは課題1), 女子の進学先の選択を規定する要因を、資格志向という要因に注目して分析する。具体的には、四大・短大・専門学校の選択肢が互いに独立であると仮定した上で、これらを従属変数とした多項ロジスティック回帰分析を行う。独立変数は、学校ランク、成績、世帯年収、資格志向である。変数と記述統計量は表1の通りである。

学校ランクダミーは、現役四大進学率をもとに、高校を普通科上位校(70%以上)、普通科中位校(40%以上70%未満)、普通科下位校・総合学科⁶⁾(40%未満)、

表1 使用する変数

従属変数		平均値	S.D.
高卒直後の状況	四大, 短大, 専門学校	1.866	0.903
独立変数		平均値	S.D.
学校ランクダミー	(基準: 普通科進路多様校・総合学科)		
普通科進学校ダミー	普通科進学校 = 1, その他 = 0	0.238	0.427
普通科中堅校ダミー	普通科中堅校 = 1, その他 = 0	0.335	0.474
専門学科ダミー	専門学科 = 1, その他 = 0	0.110	0.314
成績	高校での成績 (5段階)	3.250	1.104
世帯年収	中央値を対数変換	15.740	0.603
資格志向ダミー	進学先は「資格・技術が身につく」(進学動機で あてはまる = 1, 否 = 0)	0.878	0.328

表2 多項ロジスティック回帰分析の結果(モデル別)

基準：専門学校	【基本モデル】				【資格志向モデル】				
	四大		短大		四大		短大		
	B	S.E.	B	S.E.	B	S.E.	B	S.E.	
学校ランクダミー									
普通科進学校ダミー	1.648 ***	0.528	0.276	0.669	1.660 ***	0.544	0.281	0.672	
普通科中堅校ダミー	1.979 ***	0.514	0.286	0.639	2.055 ***	0.526	0.312	0.641	
専門学科ダミー	0.046	0.727	0.977	0.654	0.272	0.736	1.037	0.660	
成績	0.593 ***	0.192	0.102	0.214	0.572 ***	0.196	0.095	0.214	
世帯年収	0.580 *	0.320	0.367	0.391	0.484	0.325	0.330	0.394	
資格志向ダミー	—	—	—	—	-1.773 **	0.824	-0.822	1.047	
定数	-11.808 **	5.080	-7.065	6.191	-8.668	5.276	-5.705	6.420	
-2 Log likelihood	248.223				251.335				
Chi-Square	40.324***				46.787***				
df	10				12				
N	164				164				
Cox&Snell's quasi-R ²	0.218				<	0.248			
McFadden quasi-R ²	0.120				<	0.140			
* p<.100 ** p<.050 *** p<.010									

基準：短大	【基本モデル】				【資格志向モデル】				
	四大		専門学校		四大		専門学校		
	B	S.E.	B	S.E.	B	S.E.	B	S.E.	
学校ランクダミー									
普通科進学校ダミー	1.372 **	0.661	-0.276	0.669	1.379 **	0.667	-0.281	0.672	
普通科中堅校ダミー	1.693 ***	0.640	-0.286	0.639	1.743 ***	0.645	-0.312	0.641	
専門学科ダミー	-0.930	0.761	-0.977	0.654	-0.765	0.772	-1.037	0.660	
成績	0.491 **	0.228	-0.102	0.214	0.476 **	0.230	-0.095	0.214	
世帯年収	0.213	0.409	-0.367	0.391	0.153	0.413	-0.330	0.394	
資格志向ダミー	—	—	—	—	-0.950	0.833	0.822	1.047	
定数	-4.743	6.500	7.065	6.191	-2.962	6.694	5.705	6.420	
-2 Log likelihood	248.223				251.335				
Chi-Square	40.324***				46.787***				
df	10				12				
N	164				164				
Cox&Snell's quasi-R ²	0.218				<	0.248			
McFadden quasi-R ²	0.120				<	0.140			
* p<.100 ** p<.050 *** p<.010									

専門学科の4類型に分け、普通科下位校・総合学科を基準としたダミー変数である。

成績は自己申告による高校時の5段階評価で、校内評価である。

世帯年収は、100万円から2000万円までを15区分したカテゴリにつき、中央値をとったのち対数変換したものをを用いた⁷⁾。なお、世帯年収は回答率が低い質問項目である上、本調査で回答のあったサンプルは世帯年収が相対的に上方に分布しており、中央値は最低で500万円、最高で2,000万円、平均値はおよそ800万円であったため、解釈には注意が必要である。

資格志向は、進学予定の学校について「資格・技術が身につく」かどうかを評価した変数である。進学してからの評価が入らないよう、高校在学時の回答を用いている。

B 女子における進学先の選択と資格志向

以上の変数を用いて分析を行ったところ、表2の通

りになった。専門学校と短大のいずれを基準にしても、学校ランクが高いほど、成績がよいほど四大に進学しやすいという傾向には変わりがない。ここでは資格志向に焦点化して検討しよう。

専門学校を基準にした表2の上側からみよう。資格志向ダミーを入れる前(左側の基本モデル)と後のモデル(右側)を比較すると、資格志向の変数を入れるとわずかながらモデル全体の説明力が高くなっていることがわかる。また、基本モデルでは世帯年収が有意な正の効果をもっていたのに対し、資格志向ダミーを入れると世帯年収の影響が消え、資格志向ダミーが負の効果をもつ(オッズ0.170)。短大との間では資格志向ダミーの有無によらず有意な変数はない。短大を基準にしてみた表2の下側によると、四大進学に影響を与える変数は資格志向ダミーの有無によって変わらない。また、短大を基準としてみた場合、世帯年収は有意な変数ではない。

ここから、資格志向が短期高等教育機関の間では有

意な要因ではなく、かつ、専門学校と大学の間には違いがあるが、専門学校と短大との間では違いがないというような微妙なものである可能性が示唆される。

しかも、専門学校を基準に四大と比べた場合に資格志向ダミーの投入で世帯年収の影響が消えたことから、資格志向の背後に階層的・経済的・文化的な要因などが関係している可能性がある。それは短大との間では有意にならないほど微妙なもので、しかし四大とは明確に異なる層として専門学校進学を特徴づけている可能性がある。詳細については、資格志向、めざす資格や職業の違いなどについて別の検討を行う必要があるが、ここではこれ以上分析することはできない。

以上から、四大・短大・専門学校から成る進学先の選択に際しては、大学では資格志向が有意に負の影響をもつが(専門学校基準の場合)、専門学校と短大の間では資格志向は有意ではない。

ただし、こうした結果は世帯年収が比較的高い層に限られている可能性があり、幅広い、現実の世帯年収の分布に対応したサンプルでの検証は今後の課題としたい。その際には、資格志向の内実や、生徒を短期高等教育における資格取得に駆り立てる背後要因とは何かという視点も鍵となる。

4. 専門学校・短大における資格の取得状況および目標 —課題2)の分析

本章では、高卒後2年目、一般的な専門学校や短大の最終年次において、調査対象者がどのような資格をどれだけ取得しているのかを、教育機関別・専門領域別に検討する。

この問いは、さらに次の2つの課題にわけることができる。課題2-1)取得済・めざす資格の数について、専門学校と短大に差はあるのか(量的な側面に関する検討)。課題2-2)資格の種類について、教育機関や専門領域とはどのような関係があるのか(質的な側面に関する検討)。以下の各項で、順にみていくことにする。

A 取得済・めざす資格の数に関する比較 —課題2-1)量的な側面の検討

本節では課題2-1)、専門学校と短大で取得済や取得をめざす資格の数に差はあるのかといった、資格をめぐる量的な側面について検討する。なお、「2年目調査」が実施されたのは、高卒後すぐに進学したとして、専門学校・短大の2年生の秋にあたる。つまり、

いくつかの資格は取得済かもしれないが、国家試験(受験資格)などによる資格の多くは未取得で、これから取得をめざす状況にあると考えられる。また、取得済の資格については、取得時期が明らかではないという制約はある。

さて、まず取得済資格や取得をめざす資格自体の有無を検討したところ、取得済資格の有無もめざす資格の有無も、教育機関による違いはなかった(クロス表は省略)。取得済資格について、専門学校は「あり」が69.3%、短大は75.4%であった($df=1$, $\chi^2=0.700$, $p=0.403$)。めざす資格については、専門学校では「あり」が68.2%、短大では76.8%であった($df=1$, $\chi^2=1.428$, $p=0.232$)。専門学校と短大のいずれも、取得済資格もめざす資格もある者が多く、教育機関による違いはみられなかった。

次に、専門学校と短大で取得済の資格やめざす資格の数に差があるかどうかをみる。

サンプルが正規分布をしていなかったためノンパラメトリック検定である Mann-Whitney の U 検定を行ったところ、取得済の資格数については専門学校と短大で有意差はなく(平均値; 専門学校2.080個, 短大2.319個, U 検定; $U=2886.500$, $p=0.590$)、めざす資格数については専門学校よりも短大の方が有意に多かった(平均値; 専門学校1.068個, 短大1.725個, U 検定; $U=2094.000$, $p=0.001$)。

以上から、取得済の資格の数については専門学校と短大で有意な差はないこと、また、めざす資格の数は短大の方が有意に多いことが明らかになった。

これは、専門学校の方が短大よりも資格取得に力を入れているという一般的なイメージとはやや異なる結果である。

だが、資格は数や量ではかるよりも、その種類、つまり質に注目する必要がある。たとえば専門学校ではその資格がないと仕事に従事できないような「業務独占資格」(今野・下田 1995)が多く、短大では英検などの能力認定試験や、教員免許などの教育課程修了に伴って取得できるタイプの資格が多いといった可能性も考えられる。そこで次節では、専門領域と資格の種類に関して検討を行う。

B 資格の種類に関する比較 —課題2-2)質的な側面の検討

本節では課題2-2)、資格の種類に注目して、専門学校に通う女子と短大に通う女子の比較を行う。2章で述べたようにサンプル数が限られてはいるが、全

国的な傾向をある程度つかむことができる。また、若年層における資格取得の実態、しかも同程度の学歴要件に依拠する資格という、これまでほとんど俎上に載せられてこなかった、資格をめぐる教育機関・専門領域の実態を明らかにすることができる。

それでは専門学校、短大の順に、専門領域ごとに特徴的な資格についてみていこう。

1 専門領域別にみた傾向(1) —専門学校

本項では、専門学校で特徴的な資格について概観する。図5と表3は専門学校について、専門領域別に取得済の資格とめざす資格についてまとめたものである。

一人当たりの取得済資格数とめざす資格数が最も多い領域からみていくと、取得済資格数が最多の専門領域は「商業実務・経営・経理など」の系統であり、平均

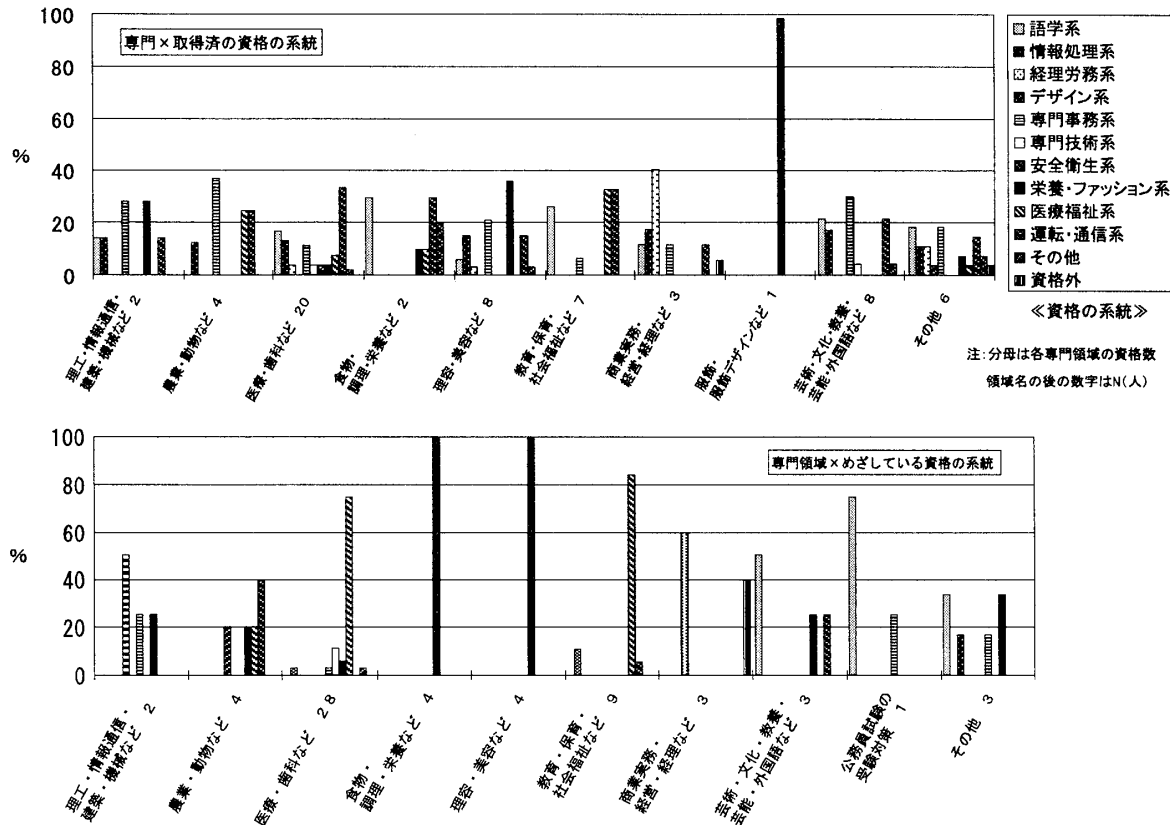


図5 専門学校：専門領域×資格の系統（女子）

表3 専門学校：専門領域×資格の数(のべ件数)（女子）

専門学校	理工・情報通信・建築・機械など		農業・動物など		医療・歯科など		食物・調理・栄養など		美容・美容など		教育・保育・社会福祉など	
	取得済の資格数	めざす資格数	取得済の資格数	めざす資格数	取得済の資格数	めざす資格数	取得済の資格数	めざす資格数	取得済の資格数	めざす資格数	取得済の資格数	めざす資格数
度数(人)	2		4		34		5		10		10	
平均値	3.5	2.0	2.8	1.3	1.5	1.1	1.2	1.4	2.7	0.5	1.5	1.8
最小値	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
最大値	5	2	4	2	7	5	4	2	7	2	4	3
専門学校	商業実務・経営・経理など		服飾・服飾・デザインなど		芸術・文化・教養・芸能・外国語など		公務員試験の受験対策		その他		合計	
	取得済の資格数	めざす資格数	取得済の資格数	めざす資格数	取得済の資格数	めざす資格数	取得済の資格数	めざす資格数	取得済の資格数	めざす資格数	取得済の資格数	めざす資格数
度数(人)	3		1		10		1		6		86	
平均値	5.7	1.7	2.0	0.0	2.3	0.4	0.0	4.0	4.2	1.0	2.1	1.1
最小値	4	1	2	0	0	0	0	4	1	0	0	0
最大値	7	3	2	0	6	2	0	4	11	3	11	5

5.67個である(ただし N=3)。内訳は「電卓関連の資格」が 3 件, 「日商簿記検定(2 級)」が 2 件, 「全商簿記検定」が 1 件などとなっていた。高校時代から引き続き商業実務関係の上級資格をめざしていることがうかがえる(内訳は「日商簿記検定(1 級)」2 件など)。めざす資格数が最も多い領域は, 「公務員試験の受験対策」で平均 4.00 個である(ただし N=1)。

人数が最も多い「医療・歯科など」の領域では, 取得済資格の数は一人当たり平均 1.47 個, めざす資格の数は平均 1.06 個である(N=34)。取得済資格もめざす資格も 0 個という者は 1 人である。めざす資格で最も多いのは「専門看護師, 看護師, 准看護師」である(17 件)。ほかには「歯科衛生士」「作業療法士」などがある。この領域は特殊な技能や設備が必要で, 伝統的に専門学校が中心となって人材輩出を行ってきた背景があるためだと思われる。短大で類似の領域にあたるのは「保健」だが, ボリュームとして主要な領域ではない上, めざす資格としては「愛玩動物飼養管理士, トレーナー」「訪問介護員(ホームヘルパー)」などで, 「専門看護師, 看護師, 准看護師」は 1 人である(ただし N=5)。

「理容・美容など」の領域では取得済資格の数は一人当たり平均 2.70 個, めざす資格の数は平均 0.50 個である(N=10)。取得済資格もめざす資格も 0 個という者は 2 人である。この領域は専門学校で非常に多いイメージがあるが, 実際の構成比自体はそれほど大きくはなく(図 1, 図 2), 「美容師・管理美容師」をめざしている者も 2 人である。めざす資格で多いのは「メイク関連」や「ネイル関連」の資格で, これらは卒業を待たずとも取得できる資格であるため, 取得済の者も多い。

2 専門領域別にみた傾向(2) 一短大

本項では, 短大で特徴的な資格について検討する。図 6 と表 4 は短大について, それぞれ専門領域別に取得済の資格とめざす資格についてまとめたものである。なお, 教育・保育系統については, 専門学校と短大で特に競合する領域であるため, 後の項でみる。

短大において一人当たりの取得済資格数が最も多い領域は「社会科学系」で, 平均 5.25 個である(N=8)。この領域では取得済資格もめざす資格も 0 個の者は 1 人もいない。「社会科学系」では, 英検など語学系や情報処理系, 専門事務系の資格取得者が多い。

めざす資格数が最も多い領域は「その他」で, 平均 2.50 個である(N=6)。取得済資格もめざす資格も 0 個という者はいない。めざす資格数が次に多い領域は「教育」で, 平均 2.13 個である(N=24)。この領域では,

取得済資格もめざす資格も 0 個という者は 1 人もいない。「教育」は短大では最も人数が多い主要な領域であるが, 専門学校と合わせて後の項でみることにし, 次に人数の多い「生活科学」についてみてみよう。

「生活科学」の領域は, 取得済資格の数は一人当たり平均 1.77 個, めざす資格の数は平均 1.46 個である(N=13)。取得済資格もめざす資格も 0 個という者は 3 人で, 資格との結びつきはやや薄い専門領域のようである。取得済資格で多いのは英検などの語学系, 情報処理系, 「秘書技能検定」などであり, めざす資格で多いのは「栄養士」で 6 人が挙げ, ほかに「秘書士」「情報処理士」などが挙げられていた。なお, 「栄養士」は「保健」専攻でも 1 人挙げていた(N=5)。「生活科学」には「家政学・食物学・被服学・住居学など」を含むが, 「栄養士」のように専門領域と密接に関連した資格以外は, 特定の専門領域以外でも取得のできる一般教養的な資格が挙げられているようである。

3 資格別にみた傾向

以上では, 教育機関別に取得済・めざす資格の特徴をみたが, 資格取得のための要件上, 専門学校と短大で競合する資格も多い。その状況をわかりやすく検討するため, 本項ではめざす資格が共通の者をピックアップしてみる。ここでは「専門看護師, 看護師, 准看護師」「幼稚園教諭・保育士」, 特に後者と, 専門学校および短大の教育関係の領域についてみてみよう(表 5, 表 6)。

一見してわかるように, 「専門看護師, 看護師, 准看護師」をめざす者は専門学校に集中している。出身は普通科進路多様校が多く, 専門学科出身者に取得済資格が多い傾向がうかがえる。

「幼稚園教諭・保育士」については, 専門学校と短大とも教育関係の領域はカリキュラム, 構成比など, 比較的重なる部分が多い。しかし, 同資格をめざすのは短大, 普通科中堅校から進学校など比較的上位の高校ランク出身者が多い。カリキュラムのタイトさのためか, 他の資格もあわせて取得しようという者はほとんどいない。また, ここでも専門学科出身者に取得済資格が多い傾向がうかがえる。

なお, 専門学校の「教育・保育・社会福祉など」では取得済資格の数は一人当たり平均 1.50 個, めざす資格の数は平均 1.80 個であり(N=10), 短大の「教育」では取得済資格の数は一人当たり平均 1.91 個, めざす資格の数は平均 2.13 個である(N=24)。この領域は, 教員免許のように課程修了によって得られる資格が多く,

取得済資格もめざす資格も0個という者はいない上、回答が似通ってくる。しかし、短大の方が教員免許を挙げる傾向にあった。専門学校において、めざす資格として「保育士」を挙げたのは4人、「幼稚園教諭普通免許状」は2人であるが(N=10)、短大では24人が「保育士」取得を、23人が「幼稚園教諭普通免許状」をめざしている。

そのほかには、専門学校では「レクリエーション・インストラクター」や「介護福祉士」「訪問介護員(ホームヘルパー)」などが挙げられていたのに対し、短大では左記の資格は挙げられず、情報処理系の資格が挙げられていた。つまり、教育系という似通った領域でも、課程修了で得る資格以外は、取得する資格のタイプに違いがあるようであった。この背景には校種によるカ

リキュラムの違いや学校で推奨する資格かどうかなどの要因があるのかもしれないが、ここではこれ以上の検討はできない。

以上から、めざす資格の種類に注目すると、専門学校・短大ともそれぞれ専門領域と関連しているが、専門学校では資格の特殊性がより高く、短大は簿記など汎用性の高い資格や、教員免許・保育士などカリキュラム履修によって取得できるタイプの資格が多いという違いがあることがわかる。これは、専門学校が医療系(図1)、短大が教育系の領域を中心に行っていること(図3)にも反映されているが、短大では一般教養系の科目が多く、主に一般事務職に就く労働力を輩出してきたためであり(小方・金子 1997)、そのため結果的に、職業特殊な専門学校に対し資格の種類は一般的

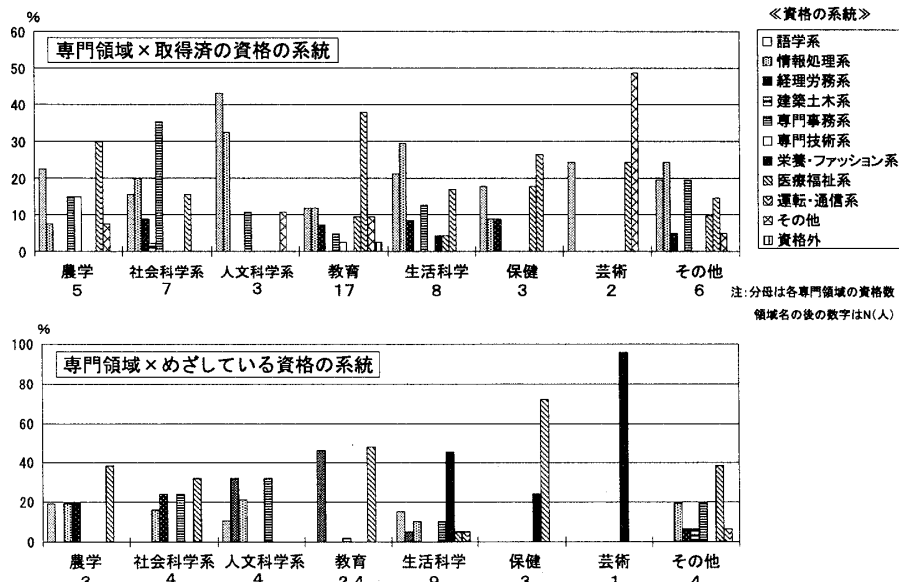


図6 短大：専門領域×資格の系統(女子)

表4 短大：専門領域×資格の数(のべ件数) (女子)

短大	農学		社会科学系		人文科学系		教育		生活科学	
	取得済の資格数	めざす資格数	取得済の資格数	めざす資格数	取得済の資格数	めざす資格数	取得済の資格数	めざす資格数	取得済の資格数	めざす資格数
度数(人)	5		8		5		24		13	
平均値	2.6	1.0	5.3	1.4	1.2	1.8	1.7	2.1	1.8	1.5
最小値	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0
最大値	5	3	10	4	3	4	8	4	7	4
短大	保健		芸術		その他		合計			
	取得済の資格数	めざす資格数	取得済の資格数	めざす資格数	取得済の資格数	めざす資格数	取得済の資格数	めざす資格数		
度数(人)	3		3		6		67			
平均値	2.7	2.0	1.3	0.3	3.3	2.5	2.3	1.7		
最小値	1	1	0	0	1	0	0	0		
最大値	4	4	3	1	5	6	10	6		

に、量は多くなるのではないかと考えられる。

5. まとめ 一本稿の含意と今後の課題

本稿では、教育年数に加え近年では資格教育をめぐっても競合関係にある短期高等教育機関、専門学校と短大に注目し、女子の進学先の選択に際して資格取得が重視されているのか、また、どのような資格(質)がどれだけ取得されているのか(量)を明らかにすることをめざした。分析の結果得られた知見は、主に次の2点にまとめられる。

第一に、四大・短大・専門学校から成る進学先の選択では、大学進学には資格志向が有意に負の影響をもつが(専門学校基準の場合)、専門学校と短大の間では資格志向は有意ではない。ただし、こうした結果は世帯年収が比較的高い層に限られている可能性はある。

第二に、めざす資格の種類は専門学校・短大それぞれ専門領域と関連しているが、専門学校では資格の特殊性がより高く、短大は汎用性の高い資格や履修によって取得できるタイプの資格が多いという質的な違いがある。つまり、養成施設として制度上の差はなくとも、資格の特殊性・領域によって中心となる機関は異なっ

ている状況が明らかになった。

以上の結果から、次のような展開や課題が導かれる。

第一に、資格取得までについてさらなる検討を行う必要がある。専門学校と短大ではそれぞれ主にカバーする資格が異なることが明らかになったが、女子高校生は資格や職業、カリキュラムの詳細な内容まで検討して進学先や専門領域の選択を行っているのかどうかは明らかにできなかった。また、資格志向の内実について、世帯年収の分布が全国平均に近いサンプルで検証する必要がある。

第二に、資格取得後の活用と処遇について、時系列的な分析によって明らかにする必要がある。短期高等教育機関で獲得された資格が、女性のキャリアコースやライフコースでどのように活用されるのか。そして、異なる養成施設で同一資格を取得できる状況に対し、企業は現実的にどのような処遇を行っているのか。同じ資格をもつ専門学校、短大、さらに四大の卒業生がいる場合、処遇はどのように行われるのか。この分析は、職業資格がCollins(1979)の批判したような形骸化した教育資格(学歴)を打破し、職種横断的な労働市場の形成に役立っているのかどうかを検証する意味でも重要である。

表5 めざしている資格＝看護師等*の者

ID	校種	専門領域	出身学科(高校)	高校時の成績	取得済の資格					あわせてめざしている資格	
1	専門学校	医療・歯科など	普通科進学校	中の下	自動車(第一種免許・普通)					—	
2	専門学校	医療・歯科など	普通科進学校	下のほう	その他の医療・福祉・衛生系資格					—	
3	専門学校	医療・歯科など	普通科中堅校	上のほう	—					—	
4	専門学校	医療・歯科など	普通科中堅校	真ん中ぐらい	—					—	
5	専門学校	医療・歯科など	普通科中堅校	中の下	—					—	
6	専門学校	医療・歯科など	普通科中堅校	中の下	—					—	
7	専門学校	医療・歯科など	普通科中堅校	中の下	—					—	
8	専門学校	医療・歯科など	普通科中堅校	下のほう	実用英語技能検定準1～準2級	自動車(第一種免許・普通)				保健師	盲・聾・養護学校教諭
9	専門学校	医療・歯科など	普通科進路多様校	上のほう	—					—	
10	専門学校	医療・歯科など	普通科進路多様校	上の中	—					—	
11	専門学校	医療・歯科など	普通科進路多様校	上の中	自動車(第一種免許・普通)					—	
12	専門学校	医療・歯科など	普通科進路多様校	真ん中ぐらい	—					—	
13	専門学校	医療・歯科など	普通科進路多様校	真ん中ぐらい	自動車(第一種免許・普通)					—	
14	専門学校	医療・歯科など	普通科進路多様校	真ん中ぐらい	英検(級無記入)	その他の語学系資格	自動車(第一種免許・普通)			助産師	
15	専門学校	医療・歯科など	普通科進路多様校	下のほう	自動車(第一種免許・普通)					—	
16	専門学校	医療・歯科など	商業科・商業系学科	上の中	全商簿記検定	商業経済検定	珠算能力検定	ワープロ実務検定	英検(級無記入)	自動車(第一種免許・普通)	—
17	専門学校	医療・歯科など	農業科・水産科	上のほう	その他の栄養・調理・ファッション系資格	その他の栄養・調理・ファッション系資格	その他の分類できない資格			—	
18	短大	保健	普通科進学校	真ん中ぐらい	自動車(第一種免許・普通)					—	

*専門看護師、看護師、准看護師 ※高校ランク不明者はのぞく

表6 めざしている資格＝幼稚園教諭・保育士の者

ID	校種	専門領域	出身学科 (高校)	高校時の 成績	取得済の資格								あわせてめざ している資格
19	専門学校	教育・保育・ 社会福祉など	普通科進学校	真ん中ぐ らい	実用英語技能検定 準1～準2級	その他の語学系資格	その他の事務系 専門資格	自動車（第一 種免許・普通）					その他の医療・ 福祉・衛生系 資格
20	専門学校	教育・保育・ 社会福祉など	普通科進路 多様校	真ん中ぐ らい	その他の語学系資 格	自動車（第一種免許・ 普通）							—
21	短大	教育	普通科進学校	上の中	赤十字救急法救急 員養成講習								—
22	短大	教育	普通科進学校	真ん中ぐ らい	自動車（第一種免許・ 普通）								—
23	短大	教育	普通科進学校	真ん中ぐ らい	自動車（第一種免許・ 普通）								—
24	短大	教育	普通科進学校	真ん中ぐ らい	その他の分類でき ない資格	その他の語学系資格	自動車（第一種 免許・普通）						—
25	短大	教育	普通科中堅 校	上の中	—								—
26	短大	教育	普通科中堅 校	上の中	自動車（第一種免許・ 普通）								—
27	短大	教育	普通科中堅 校	真ん中ぐ らい	—								—
28	短大	教育	普通科中堅 校	真ん中ぐ らい	—								—
29	短大	教育	普通科中堅 校	下のほう	—								—
30	短大	教育	普通科進路 多様校	上の中	—								—
31	短大	教育	普通科進路 多様校	上の中	その他の分類でき ない資格								—
32	短大	教育	普通科進路 多様校	真ん中ぐ らい	—								—
33	短大	教育	普通科進路 多様校	真ん中ぐ らい	その他の医療・福祉・ 衛生系資格	自動車（第一種免許・ 普通）							—
34	短大	教育	普通科進路 多様校	真ん中ぐ らい	自動車（第一種免許・ 普通）	その他の分類できな い資格	非資格扱い						—
35	短大	教育	普通科進路 多様校	下のほう	自動車（第一種免許・ 普通）								—
36	短大	教育	総合学科	上の中	その他の語学系資格	自動車（第一種免許・ 普通）							—
37	短大	教育	総合学科	真ん中ぐ らい	情報処理検定	その他の医療・福祉・ 衛生系資格	その他の語学系 資格	自動車（第一 種免許・普通）					—
38	短大	教育	商業科・商 業系学科	上の中	全商簿記検定	日商簿記検定（2級）	珠算能力検定	商業経済検定	ワープロ実 務検定	パーソナルコン ピュータ利用 技術認定試験	その他の分 類できない 資格	自動車（第一 種免許・普通）	—
39	短大	教育	商業科・商 業系学科	真ん中ぐ らい	自動車（第一種免許・ 普通）								—
40	短大	教育	商業科・商 業系学科	下のほう	全商簿記検定	情報処理技能検定（表 計算）（データベース）	ワープロ実務検 定	自動車（第一 種免許・普通）					—
41	短大	教育	商業科・商 業系学科	—	赤十字救急法救急 員養成講習	自動車（第一種免許・ 普通）							—
42	短大	教育	農業科・水 産科	上のほう	英検（級無記入）	その他の語学系資格	危険物取扱者 （甲・乙・丙種）	自動車（第一 種免許・普通）	普通以外の 自動車等免 許（原付等）				司書・司書補

※高校ランク不明者はのぞく ※幼稚園教諭と保育士をともにめざしている者につき掲載

第三に、男子における専門学校での資格取得状況と合わせ、教育機関が一条校か非一条校かという点をめぐる正統性と資格の関係について、さらなる分析・考察を行う必要がある。

これまで女性にとっての資格の功罪、資格や職業技術自体がジェンダー化されていることの問題性が指摘されてきた(青島 1997b, Blackmore 1992など)。

しかしその一方で、教育機関の正統性をめぐる問題は等閑視されてきた。特に日本では短期高等教育機関として、一条校(短大)と非一条校(専門学校)が存在する。しかも一条校である短大は9割を女子が占め、非一条校である専門学校は、専門領域にもよるが男女は

ほぼ同じ割合である。こうした制度的位相の違いが、資格の特性や教育機関の性格や正統性とどのような関係にあるのかを考察することは、短大と専門学校の間で正統性の獲得をめぐるコンフリクトが活発化している⁸⁾ 現在の課題となるであろう。

〔本稿は厚生労働科学研究費補助金「若年者の就業行動・意識と少子高齢社会の関連に関する実証研究」(主任研究者 佐藤博樹)による研究成果の一部である。〕
(指導教官 佐藤香准教授)

注

- 1)「大学再編大学再生 9 短大も専門学校の教育」『読売新聞』2007 年 2 月 9 日、朝刊16面など。短大は発足初期段階から資格取得教育を存在理由にしてきたという指摘もあるが(青島 1997a), 相対的にみれば専門学校を意識して資格教育の方針を強く打ち出すようになったのは、それほど遡った時期のことではない。それは本文中の教諭の発言にも明らかである。
- 2) Collins(1979)は形骸化した教育資格(学歴)を批判的にとらえており、その意味でも学歴と職業資格を弁別して分析すること、専門学校と短大の違いに注目することは重要である。
- 3)課題1)では「高校生調査」における変数を中心に分析を行うが、高卒直後の進路については、「1 年目調査」(卒業後1 年目の秋に実施)の情報をもとに変数を作成した。これは、「高校生調査」では卒業前、高校3 年生の冬に卒業後の予定進路について調査を行っているため、高卒後の実際の進路という点では厳密さを欠くためである。
- 4)本調査では四大が少なく専門学校がやや多い。『学校基本調査報告』では2004年の高卒後の進学率(現役のみ。母数は高校卒業者)は、四大32.6%, 短大14.0%, 専門学校22.0%である。
- 5)『学校基本調査報告』の「衛生関係」の内訳は、栄養、調理、理容、美容などである。
- 6)調査対象となった総合学科はすべて40%未満であった。
- 7)世帯年収は、保護者に対して行った調査項目(昨年度の家族全体の税込年収としてたずねた回顧による項目)による。
- 8)冒頭で述べたような短大の資格教育への傾注に加え、制度的な攻防も行われているといえる。たとえば1994年には一定要件を満たす専門学校の修了者に対して「専門士」の称号が与えられ、1999年には大学への編入が認められるようになるなど、専門学校の制度的処遇が短大に近接するようになってきたが、これに対して短大では2005年から「准学士」の称号に代わり、学位としての「短期大学士」を取得できるようにし、差別化を図っている。

参考・引用文献

- 青島祐子 1997a「短期大学における「資格教育」の考察 - その変遷と課題 -」『産業教育学研究』第27巻第1号, pp.56-63
- 青島祐子 1997b『ジェンダー・バランスへの挑戦 - 女性が資格を生かすには -』学文社。
- 阿形健司 1998a「職業資格の効果分析の試み」『教育社会学研究』第63集, pp.177-197
- 阿形健司 1998b「日本の職業資格 - その現状と効果 -」荻谷剛彦編『教育と職業 - 構造と意識の分析』1995年 SSM 調査研究会, pp.57-83
- 阿形健司 2000「資格社会の可能性」近藤博之編『戦後日本の教育社会 日本階層システム3』東京大学出版会, pp.127-148
- Blackmore, J. 1992, The Gendering of Skill and Vocationalism in Twentieth-Century Australian Education, *Journal of Education Policy*, 7(1992) pp.351-358 & pp.367-377
- Collins, R. 1979, "The Credential Society: A Historical Sociology of Education and Stratification". (= コリンズ, R., 新堀通也監訳, 大野雅敏・波平勇夫訳 1984『資格社会』有信堂高文社)

葛城浩一・山田浩之 2005「F ランク大学における学習活動: 資格取得に駆り立てられる学生たち(大学生)」『日本教育社会学会大会発表要旨集録』第57回大会, pp.65-66

今野浩一郎・下田健一 1995『資格の経済学』中公新書。

文部科学省『学校基本調査報告』各年版。

長尾由希子 2006「女子高校生にとっての短期高等教育と将来展望 - 専門学校進学者と短大進学者の比較から -」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第45巻, pp.97-103

小方直幸・金子元久 1997「女子事務職の形成と融解 - 短大卒を中心に -」『日本労働研究雑誌』No.445, pp.2-12

参考資料 専門領域×資格一覧

《専門学校女子①》

理工・情報通信・建築・機械など				農業・動物など				医療・歯科など				芸術・文化・教養・芸能・外国語など			
取得済の資格	件	めざす資格	件	取得済の資格	件	めざす資格	件	取得済の資格	件	めざす資格	件	取得済の資格	件	めざす資格	件
自動車運転者（第一種免許・普通）	2	福祉住環境コーディネーター	3	自動車運転者（第一種免許・普通）	3	愛玩動物飼養管理士、トレーナー	1	自動車運転者（第一種免許・普通）	15	専門看護師、看護師、准看護師	17	自動車運転者（第一種免許・普通）	4	ファッションコーディネーター色彩能力検定	1
実用英語技能検定準1～準2級	1	CAD	1	愛玩動物飼養管理士、トレーナー	2	トリマー	1	英検（級無記入）	4	歯科衛生士	4	珠算能力検定	2	TOEIC	1
日本語ワープロ検定試験	1	2級建築士	1	ビジネス能力検定	2	フラワーデザイナー	1	ワープロ実務検定	4	その他の栄養・調理・ファッション系資格	2	実用英語技能検定準1～準2級	2	その他の語学系資格	1
秘書技能検定	1	診療報酬請求事務能力認定試験	1	秘書技能検定	1	自動車運転者（第一種免許・普通）	1	その他の医療・福祉・衛生系資格	3	その他の技術系専門資格	2	その他の語学系資格	2	自動車運転者（第一種免許・普通）	1
ビジネス能力検定	1	ファッションコーディネーター色彩能力検定	1	文書処理（ワープロ）能力検定	1	自動車運転者（大型特殊）	1	その他の事務系専門資格	3	作業療法士	1	英検（級無記入）	1		
カラーコーディネーター検定	1	インテリアコーディネーター	1	自動車運転者（大型特殊）	1			その他の語学系資格	3	理学療法士	1	秘書技能検定	1		
ファッションコーディネーター色彩能力検定	1			普通以外の自動車等免許（原付等）	1			実用英語技能検定準1～準2級	2	臨床工学技士（CE、ME）	1	ビジネス能力検定	1		
								全商簿記検定	2	訪問介護員（ホームヘルパー）	1	ビジネス著作権検定	1		
								その他の栄養・調理・ファッション系資格	2	危険物取扱者（甲・乙・丙種）	1	ワープロ実務検定	1		
								医療事務技能審査（メディカルクラーク）	1	毒物劇物取扱責任者、一般毒物劇物取扱者	1	情報処理活用能力検定	1		
								毒物劇物取扱責任者、一般毒物劇物取扱者	1	助産師	1	情報処理検定	1		
								特定化学物質等作業主任者	1	保健師	1	マルチメディア検定	1		
								危険物取扱者（甲・乙・丙種）	1	盲・聾・養護学校教諭	1	陸上特殊無線技士	1		
								有機溶剤作業主任者	1	秘書技能検定	1	サービス接遇検定	1		
								秘書技能検定	1	その他の分類できない資格	1	その他の技術系専門資格	1		
								商業経済検定	1			その他の分類できない資格	1		
								珠算能力検定	1			その他の事務系専門資格	1		
								Excel 検定、Word 検定	1						
								マイクロソフト・オフィススペシャリスト	1						
								情報処理活用能力検定	1						
								その他の分類できない資格	1						

《専門学校女子②》

理容・美容など				教育・保育・社会福祉など				商業実務・経営・経理など				その他			
取得済の資格	件	めざす資格	件	取得済の資格	件	めざす資格	件	取得済の資格	件	めざす資格	件	取得済の資格	件	めざす資格	件
自動車運転者（第一種免許・普通）	4	ネイル関連	3	自動車運転者（第一種免許・普通）	5	介護福祉士	5	電卓関連の資格	3	日商簿記検定 1 級	2	自動車（第一種免許・普通）	3	DTP 検定	1
ワープロ実務検定	3	美容師・管理美容師	2	その他の語学系資格	3	保育士	3	その他の語学系資格	3	非資格扱い	2	全商簿記検定	2	秘書技能検定	1
メイク関連	3			赤十字救急法救急員養成講習	2	幼稚園教諭普通免許状	2	日商簿記検定 2 級	2	税理士	1	その他の語学系資格	2	レストランサービス技能士	1
ネイル関連	3			実用英語技能検定 準 1 ～ 準 2 級	1	訪問介護員（ホームヘルパー）	2	情報処理技能検定（表計算）（データベース）	2			その他の分類できない資格	2	カラーコーディネーター検定	1
英検（級無記入）	1			訪問介護員（ホームヘルパー）	1	レクリエーション・インストラクター	2	簿記検定	1			実用英語技能検定 準 1 ～ 準 2 級	1	TOEIC	1
その他の語学系資格	1			レクリエーション・インストラクター	1	手話奉仕員	1	全商簿記検定	1			英検（級無記入）	1	その他の語学系資格	1
全商簿記検定	1			その他の事務系専門資格	1	その他の医療・福祉・衛生系資格	1	全経簿記能力検定	1			日商簿記検定 3 級	1		
電卓関連の資格	1			その他の医療・福祉・衛生系資格	1	自動車運転者（第一種免許・普通）	1	自動車運転者（第一種免許・普通）	1			商業経済検定	1		
Excel 検定、Word 検定	1					自動車運転者（自動二輪）	1	自動車運転者（自動二輪）	1			珠算能力検定	1		
情報処理検定	1					日本語文書処理技能	1	日本語文書処理技能	1			秘書技能検定	1		
秘書技能検定	1					ワープロ実務検定	1	ワープロ実務検定	1			ビジネス能力検定	1		
ビジネス実務マナー技能検定	1					税務会計能力検定（所得税法）	1	税務会計能力検定（所得税法）	1			パソコン検定試験	1		
その他の事務系専門資格	1					税務会計能力検定（法人税法）	1	税務会計能力検定（法人税法）	1			ワープロ実務検定	1		
サービス接遇検定	1					情報処理検定	1	情報処理検定	1			パーソナルコンピュータ利用技術認定試験	1		
カラーコーディネーター検定	1					その他の経営・経理・労務・司法系資格	1	その他の経営・経理・労務・司法系資格	1			色彩士検定（カラーマスター）	1		
ファッションコーディネーター色彩能力検定	1					非資格扱い	1	非資格扱い	1			ファッションコーディネーター色彩能力検定	1		
その他の栄養・調理・ファッション系資格	1											レタリング技能検定	1		
その他の分類できない資格	1											サービス接遇検定	1		
												愛玩動物飼養管理士、トレーナー	1		
												非資格扱い	1		

食物・調理・栄養など				服飾・服飾デザインなど				公務員試験の受験対策			
取得済の資格	件	めざす資格	件	取得済の資格	件	めざす資格	件	取得済の資格	件	めざす資格	件
自動車運転者（第一種免許・普通）	2	製菓衛生師	3	ファッションコーディネーター色彩能力検定	1	—	—	—	—	ビジネス実務マナー技能検定	1
その他の語学系資格	2	栄養士	1	パターンメイキング技術検定	1					実用英語技能検定 準 1 ～ 準 2 級	1
その他の栄養・調理・ファッション系資格	1	管理栄養士	1							TOEIC	1
その他の分類できない資格	1	調理師	1							その他の語学系資格	1
		その他の栄養・調理・ファッション系資格	1								

《短大女子①》

[illegible]

《短大女子②》

生活科学				保健				芸術				その他			
取得済の資格	件	めざす資格	件	取得済の資格	件	めざす資格	件	取得済の資格	件	めざす資格	件	取得済の資格	件	めざす資格	件
自動車運転者（第一種免許・普通）	4	栄養士	6	自動車運転者（第一種免許・普通）	2	愛玩動物飼養管理士、トレーナー	2	その他の分類できない資格	2	ファッションコーディネート色彩能力検定	1	自動車運転者（第一種免許・普通）	3	介護福祉士	2
英検（級無記入）	3	情報処理士	2	全商英語検定	1	専門看護師、看護師、准看護師	1	英検（級無記入）	1			実用英語技能検定準1～準2級	2	医療管理士、医療管理秘書	2
全商簿記検定	2	その他の栄養・調理・ファッション系資格	2	日商簿記検定1級	1	栄養士	1	自動車運転者（第一種免許・普通）	1			その他の事務系専門資格	2	情報処理士	2
情報処理技能検定（表計算）（データベース）	2	その他の語学系資格	2	ワープロ実務検定	1	訪問介護員（ホームヘルパー）	1					観光英語検定	1	ビジネス実務士	2
情報処理検定	2	実用英語技能検定準1～準2級	1	訪問介護員（ホームヘルパー）	1	トリマー	1					その他の語学系資格	1	簿記検定	1
マイクロソフト・オフィススペシャリスト	2	盲・聾・養護学校教諭	1	その他の医療・福祉・衛生系資格	1							全商簿記検定	1	秘書士	1
秘書技能検定	2	訪問介護員（ホームヘルパー）	1	その他の語学系資格	1							珠算能力検定	1	初級シスアド	1
その他の語学系資格	2	秘書士	1									情報処理技能検定（表計算）（データベース）	1	福祉住環境コーディネーター	1
調理師	1	ビジネス実務士	1									Excel 検定、Word 検定	1	レクリエーション・インストラクター	1
医療事務技能審査（メディカルクラーク）	1	ファッションコーディネート色彩能力検定	1									パソコン検定試験	1	その他の医療・福祉・衛生系資格	1
パーソナルコンピュータ利用技術認定試験	1	自動車運転者（第一種免許・普通）	1									ワープロ実務検定	1	自動車運転者（第一種免許・普通）	1
その他の事務系専門資格	1											マイクロソフト・オフィススペシャリスト	1		
												ビジネス文書検定	1		
												訪問介護員（ホームヘルパー）	1		
												その他の医療・福祉・衛生系資格	1		
												その他の分類できない資格	1		

※件数はのべ。

「その他の分類できない資格」とは、茶道、水泳など。

「非資格扱い」とは、「ヤマハエレクトーン」など。